

月刊ケアマネジメント

8月号

特集

新総合事業がスタート

始めよう 地域づくり

特別企画

かくれ脱水に
ご用心



連載

新・事例検討道場

新連載

医師との
上手なつき合い方

「まじくる場」を つくらなあかん！



介護保険ができて15年。いけいけドンドンでサービスができたけれど、本人・家族は幸せになったのか、現場はやりがいもって仕事ができているのか——。そう問い合わせるのが、地域で10年以上つどい場を主宰してきた丸尾多重子さん。もっとまじくろう！——まずは丸尾さんからのメッセージです。（編集部）

つどい場 さくらちゃん 丸尾多重子さん

まるお たえこ

調理師免許を取得し、15年ほど東京で「食」にかかる仕事に就いた後、関西へ。10年の間に、実母、実兄、実父の3人の介護に携わる。父の看取り後、2003年につどい場さくらちゃんをマンションの一室でスタート。2007年NPO法人化、2008年に今の一軒家（自宅・貸し家）に引っ越しす。

今、現場が荒れています。家族も介護職もすさんでいて、みんなが人扱いされていない。

介護保険が始まるまでは、介護は家族が引き受けるより仕方なかった。在宅介護があたりまえやったんね。でもそれなりに支える仕組みがありました。脳出血で入院すれば、在宅で生活できるように、家族のためにリハビリをやってくれた。今みたいにすぐ退院せんと、自宅で暮らせるよう本人と介護者を育てくれた。保健師さんも在宅介護している家をくるくるまわって、いっぱいいっぱい思いを聞いてくれました。

私は今、兵庫県西宮市で「つどい場 さくらちゃん」を主宰しています。みんなからはまるちゃんと呼ばれています。つどい場に来るのは、介護家族、本人、介護職、医療職、行政、社協、研究者、マスコミ関係者…。立場を越え、誰もがごはんを食べながら思いを吐き出し、まじくる場です。もう12年目になりました。

介護者の人が来る言うても、市や保健所がやっている相談室ではありません。誰かにつなげることもしない。みんな答えがほしいのではなく、聞いてほしいだけです。「こんだけしんどいのよ」とか「首始めたろかと思った」とか。関西



「食は大事。命に直結するものやから」というのが丸尾さんの持論。
ぎゅうぎゅうの場で一緒にご飯を食べると、みんな肩の力が抜けていく



洗い場の前が丸尾さんの定位置。聞いて笑って怒って忙しい

がこわいのは、そういうこと平気で言いはんねんね。だから私も「じゃあ足ひっぱりに行ったらか」って言います。この前来た人は7時間ずっとしゃべり続けてました。でもそうやってしゃべってると、自分で答えを出していく。

よく12年も続くなあって言われますが、やらしてもらっている私がおもしろいからね。支えてあげる思って、本人からできることを奪ったらあかん。それは介護職にも言えること。まずは楽しんで仕事しないと。でもそれが今難しいみたいで、介護職の人もここでいろんなこと吐き出していく。

介護保険が地域の関係を 断ち切ってしまった

介護保険は誰を幸せにしたのかなとよく思います。あるのとないのとで言えば、あったほうがいい。でも介護保険ができる、ケアマネジャーができる、家族も依存体質になってしまった。ケアマネさんに任しいたらええわ、お任せでええわってね。ケアマネもどこかの事業所に属さないと食べられんでしょう。当然、利用者とてこいとなるし、サービスを使わせる方向に動く。

デイも家族の負担を減らすために使われる。朝9時になると「拉致車」（送迎車）が来ます。私も経験あるけれど、あの時間までの慌ただしさ知らない。いつもより早く起きて、朝食べさせて、みづくろいして。車が来た途端「うんち」。キーッてなりますわ。そういうイライラを本人も感じ取って落ち着かなくなるんです。

以前さくらちゃんに来ていた母娘は、それで思いきってデ

イをやめました。そうしたら朝ゆったりてきて、お母ちゃんも落ち着きはった。でも、デイに行かなければずっと二人っきり。だからその母娘は週1回ここへ来て、夕食は近くの焼き鳥屋に行ってました。お母ちゃんも一緒にビールをぐびっと飲む。水だとむせるのに、ビールだとむせないのは、ほんまなんでやろうね。

昔から年寄りは町にいて、近所の市場や公園でしゃべっていました。今だって町には喫茶店も居酒屋もある。施設の中に居酒屋をつくるのではなく、どうしてそこに行かないの？と思います。介護保険が福祉を産業にして、地域と家族の関係を断ち切ってしまったんやないかな。

逃げないで介護をする、それがこれから大事になっていくと思います。そのためにはまずは場がいります。元気なお年寄り、介護者、行政マン、いろんな人が、まじくってつながれる場。それが地域の中に必要です。

でもね、行政はそういう場をタダで使おうと思うたらダメよ。タダほど怖いものはないねん。ええ加減になるしね。あとね、つどい場やる人からは「介護保険サービスではないんだから、役所や社協とつながらんでもええねん」という話もよく聞く。でも私は違うと思う。逆につどい場だからこそ、つながらないと思ってやってきました。その思いが西宮市には伝わって、去年から「地域のつどい場推進事業」が始まりました。今市内に10ヵ所のつどい場があります。

肩書を外してみんながまじくりながら、地域の情報を交換したり、制度や医療を学んだり…。そんな場から何かが始まるように思っています。